

さらば、スリリングなあゝの時代へ！

戦国武将石見

戦乱と交易の中世

企画展

2017. 9/30 (土) ▶ 11/13 (月)

【開館時間】10:00～18:30 (展示室への入場は18:00まで)
 【休館日】毎週火曜日 (ただし10月3日は開館) 会期中、一部展示替があります
 【観覧料】当日券／一般：1,000(800)円、企画・コレクション展セット 1,150(920)円
 大学生：600(450)円、企画・コレクション展セット 700(530)円
 小中高生：300(250)円、企画・コレクション展セット 300(250)円
 前売券／企画・コレクション展セット 900円
 ※()内は20名以上の団体料金 ※小中高生の学校利用は入場無料
 ※障害者手帳保持者および介助者は入場無料
 ※前売券は、ローソン各店(Lコード61446)、主な旅行会社、各プレイガイドでお求めいただけます。

【主催】島根県、島根県立石見美術館、島根県古代文化センター、しまね文化振興財団、益田市、益田市教育委員会、山陰中央新報社、TSK山陰中央テレビ
 【協力】東京大学史料編纂所 【後援】芸術文化とふれあう協議会 【補助】文化庁
島根県立石見美術館
 島根県芸術文化センター「Grantow」内



「島根県立石見美術館」(島根県立石見美術館) 島根県立石見美術館

開 連 プ ロ グ ラ ム

開催記念講演会
「石見国衆連合と大名たちの室町戦国時代史」
 10月1日(日) 10:00～12:00
 [講師] 岸田裕之 (広島大学名誉教授)
 [会場] Grantow 小ホール
 定員400名・申込不要 / 聴講無料

特別講演会
「益田家文書研究の可能性」
 11月4日(土) 10:00～11:45
 [講師] 久留島典子 (東京大学副学長・東京大学史料編纂所教授)
 [会場] Grantow 小ホール
 定員400名・申込不要 / 聴講無料

中世益田を題材とした模擬授業
 平成27年に益田中学校で行われた中世の益田を題材とした授業を再現します。
 10月15日(日) 13:30～15:00
 [講師] 山本悦生 (六日市中学校教諭)
 [会場] Grantow 講義室
 定員40名・申込不要 / 聴講無料

石見の歴史講座 ※いずれも聴講無料、申込不要
 本展のもとになる研究事業に携った研究者による、石見の歴史に関するリレー講座

第1回 「石見国の周布氏とその歴史」
 10月22日(日) 13:30～15:00
 [講師] 目次謙一 (島根県古代文化センター)
 [会場] 浜田市周布公民館 研修室
 定員70名

第2回 「中世石見国三隅湊の景観と大賀氏」
 10月28日(土) 13:30～15:00
 [講師] 中司健一 (益田市歴史文化研究センター)
 [会場] 浜田市三保公民館 小ホール
 定員50名

第3回 「2つの講座(各40分)と展示解説」
 11月11日(土) 14:00～16:00
 [会場] Grantow 講義室
 定員40名
 ◎講座①「益田の湊と鉄づくり」
 [講師] 東山信治 (島根県古代文化センター)
 ◎講座②「戦国時代の日本海を
 行き交った人々～みなと浜田を中心に～」
 [講師] 倉恒康一 (島根県古代文化センター)

Museum × Theater: ミュージア vol.3
よみがえる戦国の宴
 益田藤兼・元祥父子が毛利元就をもてなした「祝い膳」を「益田家文書」を元に再現した料理と、石見の歴史や伝承を題材とした新作パフォーマンスを味わう催し。

第1部 「戦国益田の祝い膳を味わう」
 10月14日(土) 17:15開場(17:30開宴)
 第2部 芸能公演
「海山のあいだ～石見益田氏の折り～」
 10月14日(土) 18:15開場(18:30開演)
 [会場] Grantow 大ホールホワイエ
 [出演] 古事変奏プロジェクト feat. 志人
 [入場料] ※9月9日より 総合受付カウンターにてチケット販売
 海之席 3,500円(第1・2部通し、料理付・40席)
 山之席 2,000円(第2部のみ・飲物付)

戦国武将の「たしなみ」体験
1 茶の湯をたしなむ
 戦国武将、上田宗箇を祖とする武家茶の流派、上田宗箇流の茶道を体験。
 11月4日(土) 14:00～15:30
 [講師] 望月宗裕 (茶道上田宗箇流師範代)
 [会場] Grantow スタジオ1
 [参加料] 1,000円(お茶、菓子付・定員40名)
 ※9月30日より 総合受付カウンターにてチケット販売
2 能楽をたしなむ
 戦国武将たちが愛し、時には自らも演じた能楽の動きや発声を体験します。
 11月5日(日) 14:00～15:30
 [講師] 安田 登 (能楽下掛生流ワキ方)
 槻宅 聡 (能楽森田流笛方)
 [会場] Grantow スタジオ1
 定員40名・要整理券 / 参加無料 ※9月30日より 総合受付カウンターで整理券配布

まわって
 集めよう！
 益田の
 武将カード

ギャラリートーク (展示解説)
 9月30日(土)、10月8日(日)、10月21日(土)、11月3日(金・祝)、11月12日(日)
 各日14:00～
 [会場] 展示室D 申込不要 / 参加無料
 ※ただし企画展観覧券またはミュージアムパスポートが必要

ものふ
 Grantow tea ガーデン「**武士茶**」
 古来より石見地方の人々に愛飲された自然の恵みの味をお楽しみください。
 10月28日(土) 11:00～
 [会場] 美術館ロビー 先着100名 / 参加無料
 ※ただし企画展観覧券またはミュージアムパスポートが必要

Grantow秋まつり「**神楽酒**」
 10月29日(日) 10:00～16:00
 [会場] Grantow 中庭広場

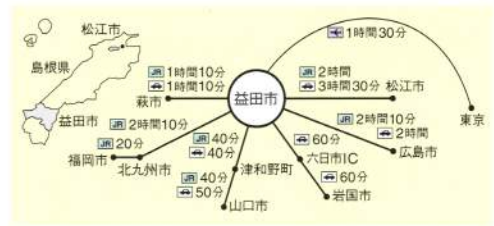
その他の関連事業
 ◎ 山城を歩こう(全2回)
 ◎ 都茂鉦山講演会(ふれあいホールみと)
 ◎ 益田市立歴史民俗資料館「益田の指定文化財」展、「石見の山城写真」展
 ◎ 益田市立雪舟の郷記念館「雪舟を招いた益田の寺院文化」展
 詳細はホームページ等をご覧ください。

開館記念感謝祭
「きんさいデー」
 10月8日(日)
 美術館は終日無料開放!

益田の武将6人がオリジナルカードになりました！
 益田氏の歴史が感じられる以下の施設、寺院に入場した方に1種類ずつ差し上げます。
 ◎ 益田市立歴史民俗資料館 ◎ 萬福寺(益田市)
 ◎ 益田市立雪舟の郷記念館 ◎ 医光寺(益田市) ◎ 須佐歴史民俗資料館(山口県萩市)
 ◎ 島根県立石見美術館 ※10月8日は「きんさいデー」のため配布しません。



石見の戦国武将



島根県立石見美術館
 〒698-0022 島根県益田市有明町5-15「Grantow」内
 TEL: 0856-31-1860(代表) FAX: 0856-31-1884(代表)
 E-mail: zaidan@grandtoit.jp http://www.grandtoit.jp

【交通案内】
 石見交通バス「Grantow前」下車 徒歩1分
 JR 益田駅から徒歩15分
 萩・石見空港から連絡バスJR 益田駅まで約15分
 浜田自動車道浜田ICから自動車約50分
 JR新山口駅からJR 益田駅まで特急約90分
 ◎ 駐車場あります(200台・無料)
 ※ただし土日祝などイベント開催時は駐車場の混雑が予想されます。

次回企画展
エドワード・ゴッリーの優雅な秘密
 12月2日(土)～2018年2月5日(月)

益田氏の発展と益田家文書の世界

歴代当主の肖像画とゆかりの美術品



〔釈迦如来坐像〕 南北朝時代 応安4年(1371) 医光寺(益田市)蔵



雪舟が描いた第15代当主の肖像画

〔重要文化財〕 雪舟(益田兼発像) 室町時代 益田市立雪舟の郷記念館蔵 [展示期間:10月25日~11月13日]



益田家伝来の兜

〔重要文化財〕 鎌倉末~南北朝時代 刀 鶴銘采国光切付鎧連勝唐上之 京都国立博物館蔵

1 石見の戦国武将を知るためのキーワード

〔益田家文書〕

中世の石見国益田を本拠とし、江戸時代には代々長州藩の家老を務めた益田家に伝来した総数10,000点余りに上る大規模な武家文書です。中世のものだけで約800点を数え、その内容も充実しており、益田はもとより石見、さらには日本の中世の歴史像を復元する重要な手がかりとなっています。

武将たちのふるさと石見地域と、海をこえた交流

武士が勢力を伸ばし、鎌倉幕府、室町幕府などの武士政権が列島を支配した中世(平安時代末~安土桃山時代)は大小の戦乱が起った時代でした。石見国でも、益田氏・三隅氏・吉見氏など複数の武将が並び立ち、しばしば権益をめぐる争いが生じていました。一方でこれらの武将たちは、京都の足利将軍や隣国の大名大内氏・毛利氏とわたりあう中で、手を結び相互に協力することもありました。彼らの活躍の背景には、日本海を通じた交易・交流による石見国と海外(朝鮮、中国、東南アジアなど)とのつながりがありました。領内の産物をもとに朝鮮や蝦夷地(北海道)の貴重な産物を入手していた益田氏のように、武将達は武略だけでなく交易にも深く関わっていたのです。本展では武将たちの奮闘の様子を物語る古文書や、彼らの高い美意識をうかがわせる美術工芸品など国宝1点、重要文化財5点を含む約100点により、石見国内で最も有力であった益田氏を中心に、石見の戦国武将の歴史と文化を紹介します。

2 10か国を治めた中国地方の覇者



〔毛利元就像〕 作者制作年不詳 洞春寺(山口市)蔵

石見の戦国武将を知るためのキーワード

〔御神本一族〕

平安時代末に石見の国司であった藤原国兼を祖とする家系です。国兼は上府御神本(現在の浜田市)に住みつき「御神本」を名乗りました。御神本氏からは、今の益田市域を治めた益田氏、浜田市域に本拠を置いた三隅氏、周布氏、福屋氏などが出て、彼らは同じ一族という認識を持ちつつも、互いに協力と争いを繰り返しました。中世の石見国は、御神本一族をはじめ複数の武将が並び立ち、「群雄割拠」ともいべき状況でした。

御神本一族の興亡と地域

石見国内の群雄割拠と周辺の有力武将たち

〔浜田市指定文化財〕 〔紙本墨書〕 大般若経 室町時代 宝福寺(浜田市)蔵

三隅信兼が出資し、全国から僧侶を集めた一大写経プロジェクト



「石州」銘の作品が里帰り



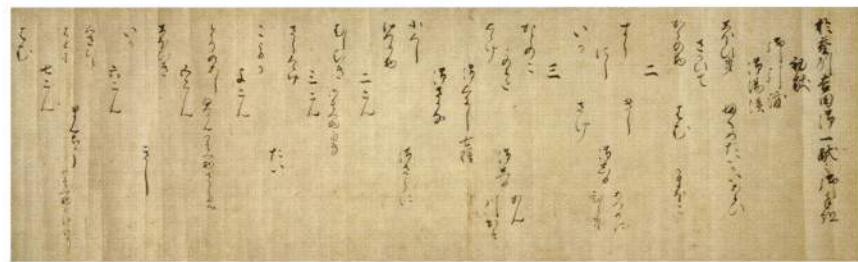
〔島根県指定文化財〕 〔金銅製戒体箱〕 天文3年(1534) 迎接寺(松江市)蔵

「Hivami」(石見)付近に「Argenti fodinae」(銀鉱山)と記すヨーロッパ製の日本地図



〔オルテリウス 日本図 ティセラ型〕 1595年 島根県立古代出雲歴史博物館蔵 [展示期間:10月25日~11月13日]

益田藤兼・元祥父子が毛利元就をもてなした宴の献立



〔益田藤兼・同母妹安吉田就手祖注之〕 永禄11年(1568) 東京大学史料編纂所蔵 [展示期間:9月30日~10月23日]

中世の東アジアと日本海・石見国

交易がもたらした富と石見銀山の繁栄

3 石見の戦国武将を知るためのキーワード

〔日本海交易〕

古代以来、日本海は東アジアの交通・物流の大動脈でした。その中で石見国の人々は豊富な山林資源・鉱物資源と中国や朝鮮半島に近い地理的条件を背景に積極的な日本海交易・交易に乗り出します。東は蝦夷地、西は東南アジアまで様々な人と物が行き交いました。それは石見銀山の開発によりヨーロッパの人々をもひきつけました。



〔華南三彩貼花文瓦甕〕 明代16世紀 萬福寺(益田市)蔵 南蛮貿易でもたらされた壺

日本海を渡って石見を訪れた薩摩の戦国武将、島津家久の旅日記



〔中務大輔家久公御上京日記〕 安土桃山時代 東京大学史料編纂所蔵 [展示期間:9月30日~10月23日]

国宝

益田家伝来、毛利家お抱え絵師による桃山絵画の名品



〔重要文化財〕 雲谷等画(山水図屏風) 安土桃山~江戸時代・16~17世紀 東京国立博物館蔵 [展示期間:9月30日~10月23日] Image: TNM Image Archives